

その中の正名は初説大山祇命之云々亦羽原
記曰湯底山大日靈尊是王云々又室永年
中説り是伊勢屋といへり。ものの極行一へり。
名は旧説傳來記といふものに湯底山の聖
觸を尋ねるに大日靈尊の尊神八大金剛
童子は本地大日如來とあり。又新編後
湯底山権現神説曰一切の亂生世のこころ
さをきて日と月をまねて月を清め心を
そへ我あは来り。現世小淨さを持歸を
今生の形一として公の位なり。といふ事

なり。我日本にうられ住て大日遍照の尊は
むろへん。つめに命より小淨ふ淨の汚を立
て因よりは大悲の日光をかり。照りてものこ
と云々たもの。一山の古号を日日月寺と稱
し。別當を法連寺。大日坊。極と稱する。ハ和
語に裁り。所の云々はる。語お似つる。や
店內。初説。後説。曰或記はけ山。大己貴命。亮
火と出見するをあらめ。まろ。ゆ。よ。己。火。乃
山。た。い。多。り。大。梵。字。の。川。上。は。有。る。味。葉
湯。祇。湯。底。山。と。云々。後。來。り。の。字。の。雅。な。る。さ。る